



教育目標 誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり

「トラブルを解決する力」を身につけるために

校長 白田 敏幸

本校では、6月と11月にアンケートを活用していじめの調査を実施しています。11月までの認知件数は、「8件」（解消したのは、「4件」）です。全校児童が30名ですので、1/3弱の子供が学校で嫌な思いをしたことがあるということになります。たとえ、いじめてやろう、意地悪をしてやろうという気持ちがなくても、その行為を受けた子が「嫌な思いをした」時点で、「1件」と数えます。本校のいじめの理由で一番多いのが、「悪口や嫌なことを言われた。嫌なことをされた。」というものでした。

先日、県内の4～7月の調査によると、県内のいじめの件数は「6985件」であったと報道されました。また、2022年度調査においては、千人当たりの認知件数が全国最多の118.4件でした。山形県は、いじめの認知件数が多いということだけではなく、「多くのいじめを発見できている。」「大人がいじめを発見できる目をもっている」「子供たちが、安心して訴えることのできる大人がいる」と捉えることもできます。本校においても、件数のみに目を向けるのではなく、「認知した数だけ困っている子がいる。」という意識で対応しています。

いじめは、学校において大きな課題の一つであり、時には、重大事態（生命や財産等への大きな被害を受ける、または、長期欠席へ結びつく）に発展してしまうこともあります。いじめをなくすための基本的な対応として、①未然防止（いじめが起きない学校づくり）②初期対応（いじめの芽を早期に摘む）③事後対応（子供たちへのフォローや再発防止）等があります。学校現場で必死になって取り組んでいるにも関わらず、なかなかいじめ件数が減らないのが現状です。

本校においても、いじめ防止基本方針（いじめ防止等に関する学校としての対応 HPにUPしてありますのでご覧ください。）を策定し、職員一丸となっていじめ防止に取り組んでいます。また、「子供どうしのトラブルは問題行動ではなく、『子供たちの学び場である』と捉えること」と、「いじめをなくすために必要なのは、『子供に、トラブルを解決する力』をつけること」とであると、日常的に全職員で確認しています。

子供がこれからの社会を生きていく上で、人間関係のトラブルは避けられません。現に、我々大人にとっても一番厄介なのが、「人間関係のトラブル」ではないでしょうか。

これまでは、トラブルが起きると、「子供がかわいそうだ。」「一刻も早く解決してあげなくてはいけない。」という思いが先行し、大人（教員）が解決しようとしていました。（大人が関わらなくてはならない場合も当然あります。）それぞれの話を聞き取り、最後には大人が裁判官になり「判決」を下す。（あなたの悪かったところはここ。君はここを直しましょう。はい、仲直り。）大事なものは、大人が、トラブルを「厄介なもの」としてではなく、**子供にとって大切な学びの場**であると捉えることだと思えます。そのためにも、トラブルに至った**それぞれの子供の思い**を大人が丁寧に聞いて「言葉」でつなぎ、すぐに仲直りすることは求めず、**今後どう行動していけばいいのか子供に考えさせ、そして、自分たちで解決できる力を身につけていくために支援していく**ことが求められると考えています。これらのことを繰り返していけば、子供はトラブルを解決する力がつくだけでなく、大きなトラブルの未然防止にもつながっていくと思っています。

子供どうしを言葉でつなぐのは、非常に時間がかかることだとは承知しています。ですが、多様な子供が生活している学校だからこそ大切にしていきたいと思っています。いじめが社会的な問題となっている今、我々大人の価値観や気持ちを優先させるだけでなく、どう子供をつないでいくか、真剣に考えていく必要があるのではないのでしょうか。

第3回 学校運営協議会 報告

第3回学校運営協議会（11/30）について報告いたします。

1 前期学校評価の報告

- ◇ 全体的に評点（評価の平均点）は高いが、本校の場合、評点のみで分析するのではなく、困っている児童が1人でもいるということに目を向け、「誰一人取り残さない学校づくり」を進めていく必要がある。
- ◇ 教職員と子供の評価に多少のずれが生じている。そこを分析した上で、学校運営を見直していく。

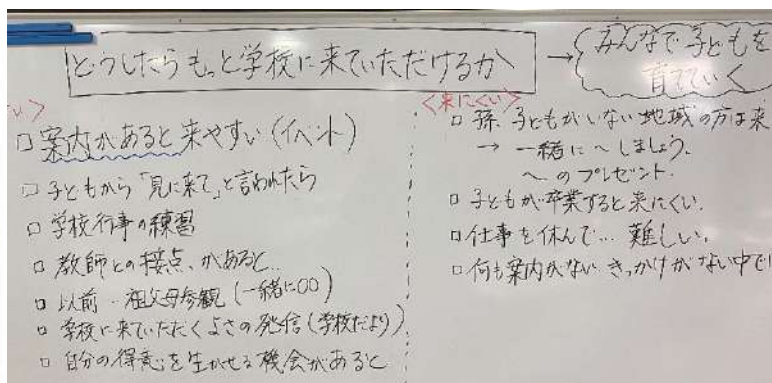
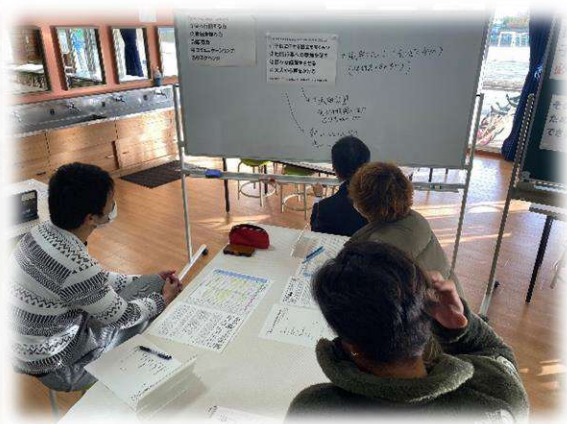
2 西部小学校の子供たちにつけたい力を育むためにできること

～2回目の熟議を受けて実践してきたことの報告～

- ◇ 子供に、自分で決定させる機会を多くもってきた。
- ◇ 公園で遊んでいる子供に声をかけたり、一緒に遊んだりしてきた。顔見知りでないと、「不審者」に間違われてしまうときもあるようなので、日常的に子供と接することを大切にしていきたい。
- ◇ スポ少に加入させたいが、様々な課題があり難しい。
- ◇ 地域行事（「風祭太鼓」や「やぶこ相撲」）に多くの子供が参加できたのはよかった。

3 多くの方から来校してもらうために…。(みんなでつくる西部小を目指して)

- ◇ 何もない時に来校するのは難しい。学校から案内があれば来やすい。
- ◇ 子供から学校に来るように誘われると来校できる。
- ◇ 自分（保護者）の得意分野を生かせる場があるとよい。
- ◇ 学校に来ていただくよさについて、学校から発信する。



【紅染め】

1年をかけて、種を植え、水をやり、育て、花を摘み、そして、紅餅を作ってきました。その紅餅を使って、5・6年生が紅染めをしました。講師は、これまで何年も関わってくださった、遠藤様、鈴木様、朝鳥様の3名です。6年生は、染めたハンカチを胸に飾り、卒業式に参加します。また、染めた和紙は、卒業制作として活用します。



【ご飯茶碗・ランチョンマット贈呈】

～JAさがえ・西村山様より～

毎年、JAさがえ・西村山様より、5年生にご飯茶碗を、1年生にランチョンマットを頂戴しております。ありがとうございました。



【書写（書き初め）指導】

地域の先生（朝鳥和夫 氏）をお迎えして、3年生以上が、それぞれ3回ずつ書写指導をしていただきました。朝鳥先生には、長い間、西部小学校の書写指導に関わっていただいています。心より感謝申し上げます。

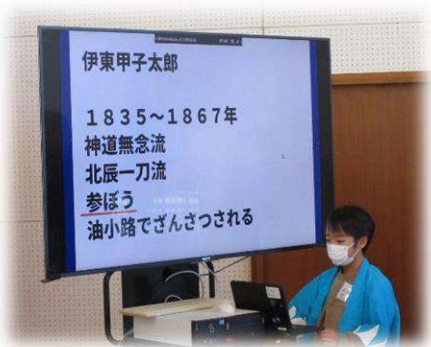


【はかせちゃんタイム 発表会】

はかせちゃんタイム（個人総合）発表会を行いました。自分で課題を設定し、資料を集め、調べ、まとめました。タブレットを活用したり、模造紙にまとめたり、動画にしたりなど、報告の仕方は様々ありましたが、約半年間の学びの成果をしっかりと発表することができました。多くの方にご来校いただき、ありがとうございました。



カッコウの子育てについて



新撰組について



SDGsについて



プログラミングによる
ゲーム作成



星座について



けん玉に挑戦